

今回も教員、学生とも同じホテルに滞在(ホテル代は自費 学生1泊約1250円、4泊で5000円)。朝から30度近く。涼しくなってきた日本から来て、つらかった。



ダナン工科大学

面積	240,291 m ²
教室とオフィス	36,500 m ² .
学生	16,420人
スタッフ	589人
学科	14
研究センター	10
課程プログラム	
工学部	29
大学院(修士)	16
大学院(博士)	13



9月11日 石川と臼井の特別講義(対象4年生)

(今回、学生のプレゼはなし)

石川 水と建築／都市景観 臼井 Learning from past existence







1. ワークショップの全体的な満足度はいかがでしたか？（5は最高）
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
2. ワークショップに参加した動機はなんですか？
3. ワークショップを通してどのような学びがありましたか？
4. ワークショップを通してどのような国際交流ができましたか？
5. ワークショップの経験を今後どう生かしたいですか？
6. MIT-DUT国際交流についてご意見、今後の希望を自由に記述してください

1. ワークショップの全体的な満足度はいかがでしたか？（5 は最高）

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

平均（12人） 4.33

* 卒業生3名は全員5点評価。高い評価を得ている。

2. ワークショップに参加した動機はなんですか？

★海外の子といろいろな視点から一緒に建築について考えたいと思ったから。また、自分の自主性を高める為。

☆過去に二回参加したことがある。当時は研究室にベトナム人留学生が在籍しており、第一回のワークショップの前年にベトナム・ダナンを訪問したことがある。日本とは異なる風土、文化の人々と建築を通じて交流することは、多分な刺激を受けると思い、参加した。

☆海外に興味があり、自身の知見を深めたいと考えたため。

○自分の論文テーマがベトナムに関係していることや、海外の学生の建築に対する考え方など国際交流を通して体感してみたかったからです。

・ 前回参加させていただいた際、国際的な交流をとおした設計ワークショップに大変感化されました。また日本にはない現地の考え方や、作業・設計方法を知ることができた貴重な体験であったため、前回に引き続き設計内容を深める形で参加したいと思い、志望しました。

・ 国際化が進む社会において、学生のうちに、国際交流の経験を積んでおくことは必要であると感じたから。また、地方公立大学においての海外提携校の存在は貴重であり、ワークショップ自体を続けることに意義があると思うから。

3. ワークショップを通してどのような学びがありましたか？

- ・彼らと日本人との考え方の違いや彼らの能力の高さなどを知った。また、大学に通うということへの姿勢の差を感じたり、同じく部分を見つけたりと色々な発見があった。グループで作業を行うに当たっては、日本での作業以上に意志疎通の大切さや伝えようとするアクションが必要なのだと学ぶことができた。

★何事にも積極的に挑戦すると自分の成長に大きく繋がることを学んだ。

★言葉の通じない中でのコミュニケーションの取り方。図を描いたり、模型で自分の意見を表現する能力。

☆日本とは全く異なる気候風土における建築のあり方を当地を訪れて体験することができた。また、ダナンの建築学生との交流で考え方の相違やお互いの得意、不得意を認識することができた。それらは以後の自身の知見、課題として得ることのできた学びである。

☆混沌とした街のファサードや都市インフラの整備不足より、交通渋滞など多岐にわたる深刻な問題を肌で感じた。そうした中、一つの課題に向けて取り組む際の協調性の大切さを学んだ

○自分の考えをベトナムの学生に英語で伝える難しさや、短時間でグループの中で一つの作品をつくるため意見を一つにまとめるのが大変だと感じました。

☆ベトナム学生のデッサン力の高さや作業の速さなど良い刺激のあるワークショップであった。⁸

4. ワークショップを通してどのような国際交流ができましたか？

・その場限りではなく、今後も繋がっていけるような交流ができたのではないかと思う。

・今回は前回と違って通訳をしてくれる学生や先生がいなかったが、英語でうまく意思疎通をして案をまとめることができた。また前回よりも学生だけでダナン市内を探検する機会が多かったため、様々な会話の中で深い交流が生まれたと思う。

☆これまで、日本や研究対象であるドイツに関する建築、文化についてはある程度知識があったが、東南アジアの建築や文化、人々について初めて交流する機会を得ることができた。分野を問わず新しいことに多く出会うことのできた交流であった。

☆ベトナム人学生のオープンでフレンドリーな気質や卓越したコンピューター技術等は強い武器であると感じた。また、英語能力の必要性(コミュニケーション)はあるが、建築に対する問題意識や知識が共通しているところもあり、お互いに新たな発見や学びが多い中で、協調してワークショップを成し遂げることができた。

★ワークショップ後も、連絡を取りあえる友達ができた。

★ベトナムの学生は幾何学的なオブジェや装飾等に力を入れており、デザイン的な視点が強かった。それに対し、日本の学生は敷地条件等を整理してから、どんなものが必要か、何があれば快適になるかなど、どちらかといえば機能的な方面を考えていることが多いように感じた。そのため、それぞれの意見を尊重し、全員が納得できるような作品を作成することは大変であったが、充実感もあった。

5. ワークショップの経験を今後どう生かしたいですか？

- ・対話をする上で行った諸々の手段は、就職したあとも海外での事業で生かしていきたいと思う。
- ・海外で建築を学ぶという経験はなかなかできない貴重なものだと思う。ワークショップを通してその貴重な経験の第一歩を踏むことができたので、更に広く海外に視野を向けていくことができたらいと思う。

★どんなことでも吸収しようという姿勢の子が、ワークショップにはたくさんいたので、そういった子を見習い、自分の社会人生活において、何事にも挑戦する事を忘れないでいきたい

★ワークショップではプレゼンテーションを行う際に、相手にどう伝えるかを考える機会が多く、仕事においても相手にわかりやすく伝えることを意識したものを作っていきたい。

☆今後、社会に出ても、ワークショップで培った多角的な視点と柔軟な思考で、生活と社会に、より良い街づくりが行っていけるよう貢献したい。

・今日東南アジアに進出する企業が増える中で今回の経験は誰もが経験できない希少なものであったと感じている。この経験の中で見たこと・感じたことを就職活動、また就職後の活動に生かしていきたい

☆今後も外国の人とのコミュニケーションにおいてこの経験を活かし、ディベートなど意見を交わすことなどにも恐れずに挑戦して行きたいと思う。

- ・期間をもう少し長くできれば、もっと内容を詰めた提案ができると思う。
できることなら日本にDUTの学生を呼べたら良いと思う。

- ・最終発表時に課題としていた地域の方を呼んで意見をいただく。
ワークショップの期間をもう少し長くする。

☆毎年ダナンに訪れているので、ダナン側が前橋を訪問する、あるいはダナン以外のホーチミンやハノイに行くことができれば多様な交流に繋がると思う。

☆言葉の壁や文化の違い、短期間で集中した作業であったため、さらに深堀していく必要がある。そのため、**WS後もPCでのやりとりを通して交友を深め**、日本の都市計画的視点から、これからのベトナムにおける持続可能な都市景観の在り方を共に考え、新たな視点や知見を学びたい。

○もう少し建築を見学する時間を増やしてほしいと思いました。

☆こちらから行くだけでなく、ベトナムの学生が前橋にも来れるような仕組みができれば良いと思う。

★また行きたいです！

★ワークショップでの体験は就職活動において、エントリーシートや、面接でのネタになり、
とても役に立った

1. DUT教員の異動は多い。学科主任が長期海外研修で不在に。
2. ダナン学生／教員の招聘の検討を exさくら財団
3. 修士課程以上の（長期的）交流（双方の）／国際共同研究の可能性
4. 書籍化（ドキュメント）の検討 日本語・ベトナム語で
5. フォンナム村での取材（新聞）／DUTでもHP掲載
6. 学生の選抜方法
7. 動画の活用方法／写真（静止画）の展示
8. 前回3月からの継続課題の実施（対象地の再訪）
9. 学生の「ながーい」付き合いへ
10. 卒業生への機会の提供（リカレント教育）